

令和6年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 教育学科・助手

申請者氏名 堤 優貴

研究課題		19世紀中葉のフランスにおける道德・宗教教育の研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究では、とりわけ19世紀中葉のフランスにおける道德・宗教教育について検討した。19世紀フランスは世俗的な国家とカトリック教会という「二つのフランス」のヘゲモニー闘争であったと整理されている。近年の教育史研究においては、国家の教会に対する勝利を強調する制度史的研究に対する批判から、当時の民衆教育の実態を明らかにしようとする社会史的研究が積み上げられている。こうした状況において、本研究では、上記の「二つのフランス」とは異なる立場から19世紀フランス教育史にアプローチする。
	研究の 結果	上記の課題に対して、具体的には「博愛主義者」と呼ばれる人たちの取り組みに注目して検討した。国家や教会とは異なる私的なセクターがどのように民衆教育に影響を与えたのか。とりわけ当時の農業コロニーの調査を通して、上記の問いに取り組んだ。結果として、具体的には、いわゆるミシェル・フーコーが『監獄の誕生』で記述した「規律訓練」の諸特徴が農業コロニーの教育実践において認められた。これまで、19世紀フランスの教育は国家と教会のヘゲモニー争いとして記述されてきており、なおかつ、教育史においては国家側の勝利、いわゆる共和主義史観に沿った歴史記述が多く見られる。だが、ヘゲモニー争いの外側において、私的なセクターから後の福祉国家が有する特徴である「規律訓練」の特徴が認められることは大変意義深い。本研究では、フーコーが用いなかった資料も含めて、当時の実態について詳細に検討した。
	研究の 考察・ 反省	今後はさらに対象を拡大して調査に取り組む必要がある。というのも、今回の調査では当時の最大の非行少年更生施設としてのメトレー農業コロニーを中心に扱ったが、同時代にはフランスはもちろん、近隣諸国においても同様の試みが広がっていた。それらはメトレーを模範にしつつ、非行少年に対して農業を学ばせることにより更生させるという試みを行なっている。これらについても詳細に検討していくことで、当時の青少年に対する社会的な包摂についての実態を明らかにすることができるのではないかと考えている。青少年の社会的な保護について、公教育の誕生前夜に着目して検討することにより、公教育が揺らぎを見せる現代の教育状況においても示唆を与えるものと考えられる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究成果物 ◇論文博士学位申請論文「後期フーコーにおける主体と教育との関係についての思想史的研究——コレージュ・ド・フランスでの講義を中心に——」日本大学。◇堤優貴「後期フーコー思想におけるキュニコス主義哲学と教育の関係 — 1984年の講義『真理の勇氣』を中心に —」関東教育学会編『関東教育学会紀要』第51号, pp. 13-23, 2024年。◇堤優貴「教育方法・ICT 活用に関する言説分析——ポストコロナ社会を見据えた和雑誌・洋雑誌の比較検討から」日本大学文理学部教育学科編『ポストコロナ社会における教育問題に関する発展的研究 —日本大学文理学部人文科学研究共同研究（第七次報告書）—』, 2025年。◇堤優貴「第3章 ルソー『エミール』——自然と社会の葛藤」間篠剛留編著『教育と出会いなおすための教育思想』教育開発出版、2025年, pp. 40-53。◇堤優貴「第10章 フーコー『監獄の誕生』——近代教育批判について」間篠剛留編著『教育と出会いなおすための教育思想』教育開発出版、2025年, pp. 114-127。</p>